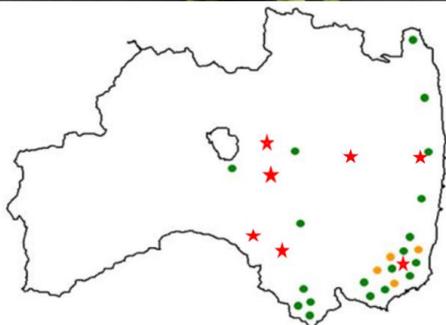
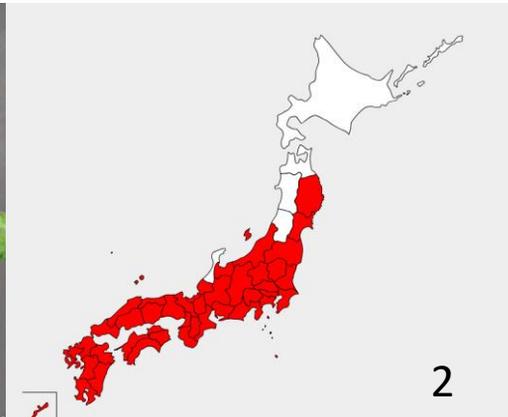


タバココナジラミ及びトマト黄化葉巻病のまん延防止対策

編集：福島県農業総合センター



●タバココナジラミバイオタイプQ発生(H20年)
●トマト黄化葉巻病・バイオタイプQ発生(H20年)
★トマト黄化葉巻病発生地域(R6年8月現在)



- 1：トマト黄化葉巻病の症状
- 2：トマト黄化葉巻病に関する特殊報の発表状況（赤が発生都府県 R6年8月現在）
- 3：福島県におけるタバココナジラミバイオタイプQの発生状況（H20年4月）及びトマト黄化葉巻病（TYLCV）の発生状況（R6年8月）
- 4：タバココナジラミの寄生状況

トマト黄化葉巻病はタバココナジラミ（害虫）が媒介する植物のウイルス病です（病原：トマト黄化葉巻ウイルス-TYLCV）。福島県内の複数地域で発生が確認されています。

トマトやミニトマトが本病にかかると減収が著しく、収穫が皆無になることがあります。トマト生産地で発生すると、甚大な被害が予想されます。

症状

☆トマト黄化葉巻病の症状：発病初期は生長点付近が黄化、葉が巻き込みます(口絵参照)。その後、次第に葉が小型化し、一見ジャガイモの葉のようになります。発病後は開花しても結実しなくなり、大幅な収入減となります。



TYLCVの症状
(葉の小型化)



TYLCVの症状
(葉の黄化、巻き込み)



TYLCVの感染株

伝染環

☆タバココナジラミを介した伝染：トマト黄化葉巻病の伝染源はトマト黄化葉巻病ウイルスに感染したトマトです。また、廃棄した感染株から発生した野生生えトマトを介しての伝染もあります。罹病植物を吸汁し、ウイルスを獲得したタバココナジラミが健全な株を吸汁することにより、伝染します。また、一度ウイルスを獲得したタバココナジラミは、死亡するまでウイルスを保持します。保毒したタバココナジラミは経卵伝染しないとされ、汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしません。



野良生えトマト

☆タバココナジラミの形態：媒介昆虫のタバココナジラミ成虫は0.8mmほどの白い小さな虫で、オンシツコナジラミとよく似ています。成虫での判別は難しいので、ルーペなどで幼虫の体色と刺毛の有無を確認すると良いでしょう。なお、オンシツコナジラミは本病を媒介しません。

タバココナジラミ成虫



オンシツコナジラミよりやや小さく、
翅が重ならない。

オンシツコナジラミ成虫



タバココナジラミよりやや大きく、
翅が重なる。

タバココナジラミ幼虫



体色は黄色、やや細い楕円形で
刺毛はほとんど無い。

オンシツコナジラミ幼虫



体色は白、厚みのある楕円形で
長い刺毛がある。

☆タバココナジラミの生態及び被害：タバココナジラミは野菜や花き類等の様々な植物に寄生します。東北地方では、露地での越冬は出来ないと考えられています。通常、越冬型の栽培では、冬期間のタバココナジラミの寄生密度は低く、4月以降に急増します。虫の寄生密度が高くなると、トマトでは果実に着色異常が生じ（ウイルスによるものではない）、虫の排泄物（甘露）が葉や果実を汚しますので、早期発見・早期防除に努めて下さい。



タバココナジラミによる果実の着色異常



タバココナジラミの甘露による果実汚れ

対策

侵入防止

侵入防止対策として、防虫ネットを用いてほ場外からの飛来を防ぐことが重要です。また、苗と共に施設内に持ち込まないように注意しましょう。0.4mm以下の目合いの防虫ネットをトマト栽培施設の開口部に展張することで成虫の飛来を防ぐことができます。また、施設内の高温が懸念される場合は、換気扇や遮光資材等の対策を講じて下さい。その他、UVカットフィルム、黄色粘着板、光反射資材などを、組み合わせて利用すると効果的です。



防虫ネット設置状況



黄色粘着板設置状況

耐病性品種の導入

耐病性品種の導入が防除に有効です(表1)。しかし、耐病性品種は症状が出ないだけでTYLCVに感染し、他ほ場への感染源となる可能性があります。そのため、耐病性品種を導入した場合でも、タバココナジラミに対する通常防除を徹底して行いましょう。

表1 トマト黄化葉巻病耐病性品種

タイプ	品種	種苗会社	病原ウイルスに対する抵抗性	
			イスラエル型	マイルド型
大玉	桃太郎ピース	タキイ種苗	○	○
大玉	かれん	サカタのタネ	○	○
大玉	有彩014	武蔵野種苗園	○	○
ミニ	TSX-827	トキタ種苗	○	○
ミニ	TY千果	タキイ種苗	○	○
ミニ	アルル	武蔵野種苗園	○	○

出典:各種苗会社HPより掲載

*国内で発生しているトマト黄化葉巻病には「イスラエル型」と「マイルド型」の2種類があります。病徴の発現が激しいことから劇症型と呼ばれるイスラエル型と比較的発現が穏やかなマイルド型があります。

薬剤による防除

令和6年8月23日時点の登録

薬剤による防除を行う際には、同じ系統の薬剤を連用しないことが重要です。薬剤抵抗性を発達させないために、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。また、薬剤抵抗性が発達しにくい、糸状菌製剤(マイコタール、ボタニガードES等)や気門封鎖剤(サンクリスタル乳剤、サンヨール等)を組み合わせ、化学農薬だけに頼らない防除を行きましょう。

*マイコタールは野菜類(施設栽培)での登録です。露地栽培では使用できないため注意してください。

栽培終了時の対策

○蒸し込み処理

トマトを地際部から切断し、施設内の植物が全て枯れるようにします。その後施設を密閉し、日中ハウス内が40℃以上の高温になることを確認して下さい。蒸し込み期間はトマト等の植物体が枯れるまでの期間を含め10日以上が目安です。

○キルパーによる処理

栽培終了後にマルチ内に設置されている灌水用チューブを用いて処理すると、ガスで立毛状態のままトマト・ミニトマトを枯死させるとともにコナジラミを死滅させることができます。

*作業の際には、コナジラミを逃がさないように気をつけましょう。

問い合わせ先

福島県農業総合センター 安全農業推進部(病虫害防除所)発生予察課 024-958-1709

// 生産環境部作物保護科 024-958-1716

または、最寄りの農林事務所農業振興普及部・普及所へご連絡下さい。

編集:福島県農業総合センター安全農業推進部(病虫害防除所)